

# 論 說

## 東京市街路の誇り

併せて道路技術家並に地方議會の諸氏に望む

藤 原 俊 雄



一

日本が世界の各國に對比して誇るに足るべきものは、天然の方面には頗る多いにも拘らず、人工的の方面には遺憾ながら甚だ少いのである。其の中に於て今日纔に誇るべきものが一つあると思ふ。それは即ち東京市の改良されたる街路である。

東京市の街路は永い間、恰も泥濘沼を成したるが如き状態であつて、明媚なる風光に憧れて我國を

訪れる世界の外遊觀光客をして甚だしく失望せしむるものゝ一つであつた。彼等は此の街路の状況を何と觀たであらうか其の甚だしきに至つては『日本では國民の食糧が不足するさうだから東京市の道路に稻を植ゑたら宜からう』といふが如き批評を加へた者もある。又度々道路に砂利を敷いて修理するといふ習慣は外遊客をして『此處は何れの海岸か』といふ奇問を發せしめたといふ話もある。或は又幾ら砂利を入れてもローラーを掛けるといふ事をしない、通行者の靴や下駄を以てローラーの代りにして居るのを見て『日本のローラーは人の足に穿つた履物である』といふやうな、美文的の文句で日本の道路の風俗を歌つたものを、自分は外國の雜誌で讀んだ事がある。獨り外國人のみならず、日本人の觀察に於ても、屢々人の話題に上る『秋雨や泥鰯居さうな江戸の町』といふやうな俳句も詠まれて居る。以て如何に東京市内の道路が悪かつたかといふ事を知るに足るのである。

## 二

然るに明治の末年、大正の初め頃より漸く此の惡道路の状態を改良しなければならぬといふ機運が動いて、先づ試験的舗装といふものが東京市内に試みられた。第一に銀座通り、本郷の帝國大學前通り及び神田の須田町附近に僅かに二三町の間、或は木煉瓦を鋪き、或はアスファルトを用ひて試験舗装が行はれた。

所が其の頃は技術家の頭腦も進歩して居なかつたので、基礎工事も施さず、或は之を施しても頗る

貧弱な、たゞ節約主義の試験工事であつたが爲に、木煉瓦の如きは毎日にして破壊せられ、アスファルトも數ヶ月を出でずして龜裂を生じて、忽ち市民の非難の的となるといふ状態であつた。之が爲に折角試験的に行はれた舗裝が不良なる結果に終つて、何とかして改良せられたる道路を欲しいといふ國民の輿望は裏切られ、其の工事の實際は到底これに相應することが出來ない爲に、是は到底日本の如き國に於て立派なる道路を築造することは無益である、或は贅澤の極であるといふやうな考が大勢を支配して、當時の試みは遂に成功の端緒を開かずして終つたのである。

### 三

當時一部先覺の士を除いて一般世人の考が如何に消極的であり、今日より見れば寧ろ一つのナンセンスとして迎ふべき程度のものであつたかといふ事を見るべき二、三のエピソードを語るならば、時の東京市長尾崎行雄氏は、最も舊弊退嬰の思想を有つて居つた市會議員をして歐米の都市を視察せしめ、以て我國に道路改良の輿論を起させようといふので、非常な努力をせられた。然るに某々市會議員の有力者が歸朝の上報告して言ふのに、『東京市の道路は外國のやうに舗裝などをする必要はない、今回諸外國を視察して見るに、西洋人は殆ど犬猫と同様に、戸外を歩いた靴を履いて其の儘家の内に上るのである、吾々日本人は下駄といふ便利なものを有つて居る、道路が如何に泥濘であらうが高下駄を履いて歩けば少しも差支はないではないか、而して下駄の儘家に上るといふ習慣は日本に

は無いのであるから、道路の鋪装などに金を使ふ必要はない』と言つたのである。

又會て坂谷芳郎氏が市長在職中に、下水道の計畫を熱心に進めた所が之に對する反對の世論が非常に喧しくなつて、全く無益の工事であるといふ聲が高かつた。當時貴族院に於ける侃々諤々の論客を以て有名な某氏が、二、三の同志を伴うて坂谷市長を訪問して言ふのに、『下水道などといふものを莫大な金を投じて造る必要はないではないか、日本には昔から下水や溝といふものは町内の鳶人足が浚ふといふ習慣があるのである、我國に傳統的の鳶人足に依つて事の足りて居るものを大金を擲つて暗渠にするなどといふ事ほど愚な企てはない』と言つて、滔々と反對の説法をしたことがある。

#### 四

それが僅に二十年に足らざる過去の事である。然るに今日の東京市内の道路は如何であるか、坦たる鋪装の完備せる街路を日夜に吾々は歩行し若くは自動車をしてドライブすることが出来るといふのは、顧みて轉た今昔の感に堪へない。實に我國に於ける最近の文化施設中最も進歩の跡の著しい驚嘆すべき成果であつて、東京市に於ける道路鋪装の完備は世界に誇るに足るべきものであると言つて決しても溢美ではあるまい。

#### 五

而して其の事業の完成されたる内容に於て驚くべきものゝ第一は斯かる立派なる道路改良が比較的短日月の間に完成された事である。從來道路の完全なる舗装といふやうな事は、市民は固より、技術家の頭腦の中にも其の思想の甚だ乏しかつたものが一朝躍然として一大進歩を遂げて、極めて短日月の間にかくも美事に舗装工事を完成された事は、確に我國文明の進歩中の第一位に在るものと謂はねばならぬ。

其の第二は、斯かる立派なる舗装が比較的少額の資金を以て完成せられた事である。即ち今日までに四百五十萬坪に剩る舗装が完成されて居るにも拘らず其の費用は僅に四千六七百萬圓であるさうである。尤も國の直轄施行に係る復興局關係の費用を合算すれば、恐らくは五千萬圓を越ゆるであらうとは思ふけれども、斯かる大規模の改良工事が比較的少額の金で出来たといふことは、是亦世界に誇るに足る事である。

其の第三は、道路技術の進歩の著しき事である。我國の道路に關する技術は從來頗る幼稚であつて殆ど見るに足るものは無かつた、それが輒近に至つて急速なる研究調査を重ねられた結果、今日では基礎工事、中間工事の工法なども實に整然として居る。而して舗装工事に至つても、或は坂道には小鋪石を用ひ、或は交通の繁劇なる部分には混凝土を用ひ、或は閑靜を要する地域には瀝青材料を用ふる等、細心の注意が拂はれて居る。又彼の木煉瓦の如き舗装は、濕氣の多い我國には適當でないとか、其の他道路の築造に多額の工費を消費することを許さない我國上下の經濟狀態に於て、高級なる

ものより簡易なるものに至るまで、路面鋪装の方法は遺憾なき迄に研究せられ、其の工事の種類は數十種にも及んで居ると聞くが如きは、誠に學術的の進歩としても稱歎すべき事である。

## 六

自分は世界各国の道路鋪装の状態も略々熟知して居るが、米國の諸都市に於ては、自動車が行り始めて數十年の後に、尙ほ路上には腕大の石の重疊したる間を馬の蹄が火花を散して疾驅するが如き状態が残つて居つた。凸凹極まりなき割石の上を自動車を走らせることはなかく困難であつた。而も斯の如き實況が一九一五年まで残されて居つたことを考ふる時、我が東京市に於ては震災後僅に八ヶ年の星霜の間に斯かる好成绩を示すに至つたといふことは實に偉大なる事蹟である。一面より考ふれば、是は全く震災の賜である。所謂禍が轉じて福となつたものであると言ひ得るであらうけれども、其の此に至る迄の國民の意氣、當事者の努力は決して無視する事は出来ない。實に世界無比の大業蹟として、歐米先進國に誇るべき所以である。

## 七

次に東京市の街路の誇るべきは、是は何人もあまり氣が付かない事かと思ふが、鋪装道路の清潔な状態といふものは、想ふに世界に冠たるものである。今日何れの國の鋪装道路を見ても、馬糞が日光

に曝され、風に吹き寄せられて依然として残つて居る。雨天の日などは是が綿の如き藁屑となつて雨に打たれ、下水に流れ込んで居るといふ状態を見ない所は無い。然るに東京市の街路には馬糞を殆ど見ない、或は馬が少い爲であらうか、而も馬糞掃除をそれ程一生懸命にやつて居る特別の人夫なども見ない。そのみならず新聞紙の破片や、煙草の吸殻などを投げ棄て、道路を汚すといふ事も意想外に少いと見えて、市内の街路は概して餘り汚れて居ない。是が僅に三十臺足らずの洗滌車に依つて日々掃除されて居る状態であると聞く時に、自分は實に驚くべき好い結果であると思ふ。

伯林の如き、あの建築其の他の美を誇る都市に於て、街路は犬糞や讀み古した新聞紙等を以て汚され、甚だ不潔である。殊に伯林に於ては、ブルバードに於ける樹下道や、歩道と車道の間の芝生の上などを歩くと、必ず犬糞を踏みつけるのを常とする。東京市に於ては犬に對する警視廳の取締が行届いて居る結果であるか、斯かる經驗は未だ自分は有しない。

尤も古老の語る所を聞くと、往時江戸に於ては火事と夜の暗い事と、犬の糞と、此の三つが江戸の名物であつたといふことであるが、今日から之を考へると實に隔世の感がある。さうして今日の鋪裝道路の清潔なる事は實に世界に誇るべき東京市の偉觀であると稱歎せざるを得ない。

惟ふに昨今は日本も非常に經濟的に行詰つて居つて、市民も古新聞一枚、紙半分も道路に捨てて置くことは勿體ないといふやうな、某々政治家式の極端なる節約を實行して居る結果であるかも知れぬ。果して然りとすれば、將來景氣が好轉したならば、或は道路が汚損されるといふ結果になるかも知れ

ぬが、現状を以て觀れば確に東京市の世界に誇るべき點である。

## 八

以上自分は言を極めて東京市の街路の改良されたる状態を讚美し來つたが、固より其の反面に於て何等の缺點なしとは言はない。其の缺點の側より之を觀るならば、鋪裝工事も比較的經費が安く出來て居る結果であるか、之を歐米先進國の理想的なる鋪裝状態に比較し、或は近く關西方面の都市の状態に比較して見ると、聊か貧弱なる憾あるを免れない。場所に依つては三、四ヶ月前に鋪設した鋪裝路面が既に凸凹龜裂を生じたり、或は工事の最初から所々膏藥貼を施したやうな鋪裝も往々あつて、滑かに自動車の走ることの出來ないのは甚だ遺憾千萬である。殊に京濱國道の如きは、阪神國道の路面に比べて甚だ遜色のあることは衆口一致する所である。

是等は一は東京市の地質の然らしむる所かも知れぬが、また一面その衝に當る技術家及び地方議會に列するところの議員諸氏が、無理解なる經費節約の擧に出でたる結果斯かる醜態を招くに至つたものではないかと想像するのである。道路の改良といふが如き國家經濟および國民生活の上にも最密接の關係ある所謂百年の大計を樹立すべき技術家諸君竝に地方議會に列する人々は宜しく着眼を大にして永遠の考慮を運らすべきであると思ふ。



## 九

之を要するに東京市の道路改良といふ大事業が、震災後八年間に斯くも美事に完成したといふことは、實に世界に誇るに足るべき事である。而して嘗に外觀の美を誇るのみに止まらず、之を經濟的の眼より見るも實に偉大なる効果を齎して居るのである。そは我が東京市内に於ける鋪裝完成の結果、自動車の車體損傷の輕減及びガソリン消費量の節約だけでも、其の推定金額は年々一千萬圓に上るといふことである。

茲に於て自分は十數年前を回顧して、東京市の街路が前述の如き惡道路であつた時代に於て『日本人は國民一人に付て一日八錢宛の損失を敢てして居る、日本國民六千萬の人口とすると一日四十八萬圓の損害を惡道路の爲に被つて居るのである』と喝破した彼の米國鐵道王ヒル氏の批評を想ひ起すのである。ヒル氏の言の一見奇矯に似て其の實は決して誇張にあらずといふ事は、今日東京市の街路改良の結果が雄辯に之を物語つて居る。此の事は今や自動車の運轉に従事する人々より、地方議會に列して豫算協賛の權を有する人々に至るまで、儼として動かすべからざる目前の事實である。聞くならく、道路改良會の創設もヒル氏の提言に負ふ所大なりと、希くは獨り東京市と言はず、日本全國に亘つて、今後倍々道路改良の必要と其の齎す効果とを闡明せられ外は、世界各國の進歩に伍し、内は國民經濟の進展に貢獻せられん事を切望する次第である。(了)